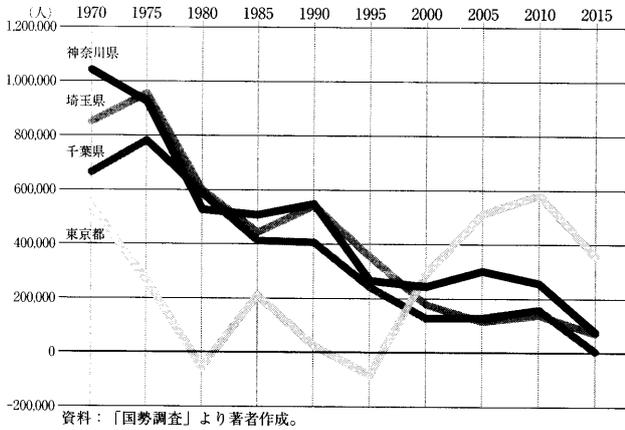


2000 年以

降の増加が大きく、近年の東京集中の激しさがわかる（図表 1・1）。

図表 1 - 1 郊外も人口減少時代に入りつつある
1 都 3 県の 5 年ごとの人口増減



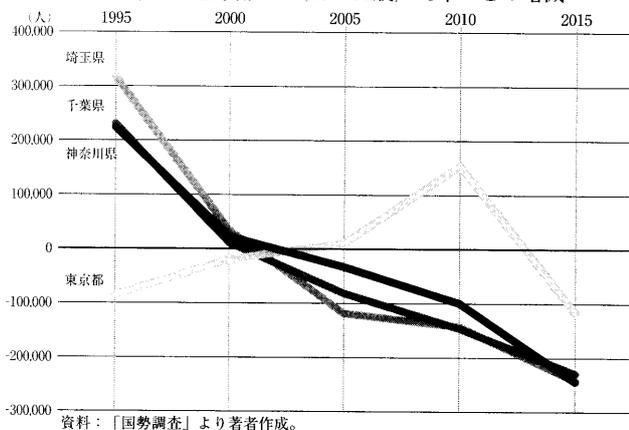
このように 1970 年代から 80 年代、バブル期までに住宅地として開発された、主に都心から 30~50 キロ圏の地域で近年人口減少が起きている（口絵 4 ページ参照）。

特にバブル期に開発された 40 キロ以遠の地域は、そこで生まれ育った郊外二世たちが、長い通勤時間を嫌う、よりよい子育て環境を求める、より便利な商業環境を求めるなどの理由で当該地域から流出していることが想像される（第 3 章参照）。

つまり新しく育った生産年齢人口が減り、かつて生産年齢人口だったが現在は高齢者となった親世代ばかりが残る、という事態が進んでいるのである。

1 都 3 県の生産年齢人口の 5 年ごとの増減を見ると、埼玉、千葉、神奈川もこの 5 年間で 10 万人以上が減少している（図表 1・2）。

図表 1 - 2 働き盛りが減っていく
1 都 3 県の生産年齢人口(15~64歳)の5年ごとの増減



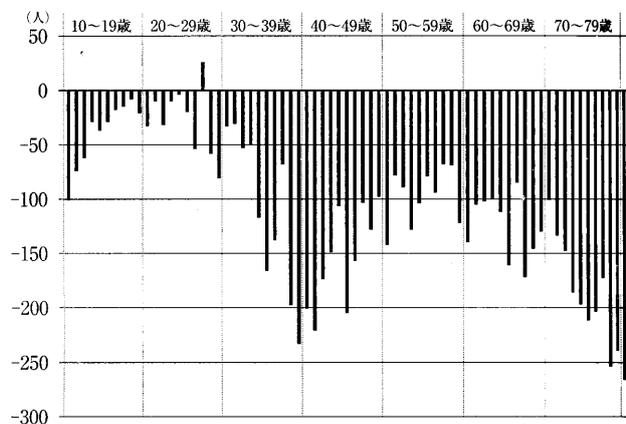
コーホートとは、同じ年に生まれたり結婚したりした人々の集団を言う。たとえばある

地域で、2015年に30歳である人が200

5年に20歳だったときから何人増減したかが、本書で言うコーホート増減である（したがって日本全体で見れば、当然ながらコーホート人口はどの年齢でも死亡によって減少していく。増加するのは海外からの転入があったときだけである）。

衰退型

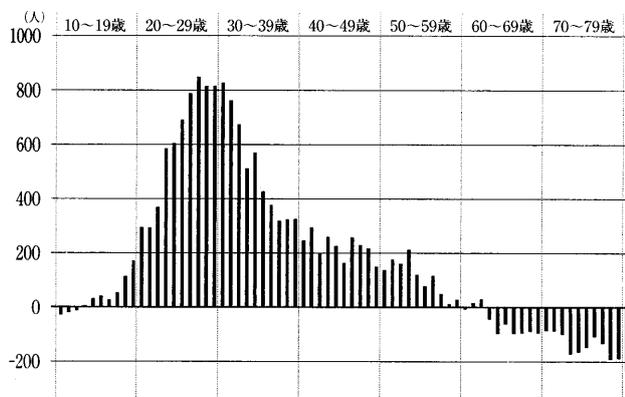
図表1-14 横浜市瀬谷区コーホート増減 2005-15



27

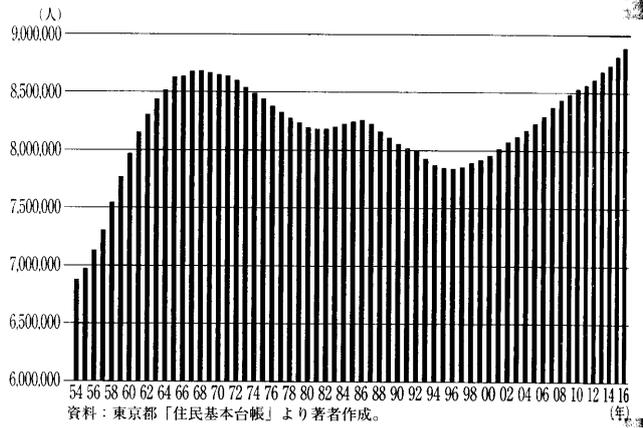
成長型

図表1-27 横浜市西区コーホート増減 2005-15



ただし、23区全体の人口動態を詳しく見ると、近年、転入人口はさほど増えているわけではない。それなのになぜ人口が増えたかというと、**転出人口が減った**からである（図表1・37）。転出人口が減ったのは、結婚、出産を機に郊外に家を求めなくても、都心でマンションなどを買ったり借りたりすることが容易になったからであり、さらには、そもそも結婚する人が減ったからである。

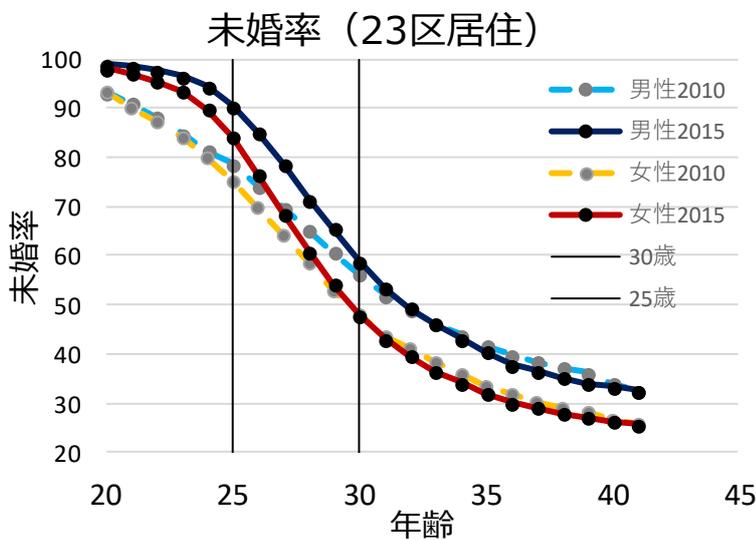
図表 1 - 35 東京23区の人口推移



単純計算で言えば、日本で減った若い人口の7割以上が23区に集まったと言えるのである。

日本人の若い人口が減っている分を外国人が埋める格好になっているのだ。この若い外国人がそのまま永住すると、23区内では、30代でも40代でも外国人の割合が約1割という時代が来るであろう。

30代の未婚率が減り始めた



こうしてみると、神奈川県出身の男性は学歴が高くても、年収が高くても、神奈川県内に住み続け、あまり東京都には転出しないし、女性もややそういう傾向があると言えそうである。それは神奈川県、特に横浜市と湘南地方のブランド性のためであろう。

他方、埼玉、千葉出身の男性は年収が高まると東京都に転出する傾向が強く、女性もそういう傾向があると言えそうだ。

このように見てくると、所沢市は、東京23区というよりも埼玉県内の競争に負けている。

しかも都心からより遠い狭山、入間、川越に負けている。

・・・

このように所沢市は、都心に勤めるサラリーマンにとっては通勤しにくく、子育て世代にとっては子育てしにくく、シニアには老後を楽しく過ごしにくく、自営業者にとっては商売しにくい街として認識されてしまった感がある。

住みよい街の一要素はウォークブル (**walkable** : 楽しく歩ける) であることだが、そこにもう一つの要素としてワークブル (**workable** : 楽しく働ける) であることを追加したい、というのが私の提案である。

前述のように、自動運転のクルマが実現すると、車の台数自体は激減すると言われている。そうすると、かなりのクルマのディーラーが不要になるが、そこがそのままコモビリティのターミナルステーションになればよい。

娯楽について調べてい

ると、娯楽というのは人間にとって根源的な欲求なのだなと感じる。

なぜなら、人間にとっては衣食住が最優先とはいえ、ろくに食べ物もなく、バラックに住み、ぼろを着ていた敗戦直後の時代ですら、人々は娯楽を求めていたからである。

飯能

また、フィンランドの物語であるムーミンのテーマパーク「メツァ」(フィンランド語で森という意味) が、2018 年秋に開業する予定であり、観光客の増加が期待されている。宮沢湖周辺の約 16 万平方メートルを開発するものだ (すでに飯能市にはムーミンをモチーフにした「あけぼの子ども森公園」があり、街中や市立図書館などにもムーミンの登場人物がたくさん使われている)。

~~~~~

<https://metsa-hanno.com/>

埼玉県飯能市にOPEN

metsä®



2018.11.9 OPEN



MOOMIN  
VALLEY  
-PARK-

2019.3.16 OPEN

~~~~~

長くなったが、おそらく本書は、理論的には私の郊外研究として最後の本になるだろう。私としては、今はこれでだいたい言うべきことは言い切った気がしている。だから、今後郊外について何か書くとしたら、個別の地域の歴史研究や、地域再生の事例のレポートになるのではないかと思う。